

# 議員年金復活？について

令和6年2月定例議会にて「厚生年金への地方議会議員の加入を求める意見書」が坂本・柳生・土井（維新）と岸田議員以外の賛成で可決されました。

## しかし 私たち大阪維新の会は断固反対です！

かつて存在した地方議会議員の年金制度は、財源不足の全てを公費で負担することは国民の理解を得ることは難しいと判断され、平成23年6月に廃止されました。しかしながら、元議員等の既存支給者への給付は今後約50年間継続するとされています。加えて、総務省HPでは平成23年頃の試算となります、公費負担累計総額は、1兆1,400億円という莫大な額になっています。仮に、地方議会議員の厚生年金加入が認められれば、超少子高齢化による扶養費の増大等で、今後さらに厳しさを増していく自治体財政に新たな税負担を生じさせることになります。その新たな負担額は、日本全国では約200億円にも上ると試算されています。

地方自治体の歳出予算を承認し、税金の使途を厳格に監査する責任がある地方議会議員自らが、議員特権と批判され、既に廃止された地方議会議員年金制度を代替するような厚生年金加入は、到底国民の理解を得られるものではありません。個人事業主など多くの国民は国民年金に入り、地方議会議員を厚遇する必要はなく、同様の条件で良いと考えます。よって、地方議会議員を特別に待遇するような、地方議会議員の厚生年金加入については、断固反対することを申し上げ、反対討論とします。

## 石川県へ災害義援金を贈らせていただきました

改めて今年1月1日に発災しました、石川県能登半島地震により、お亡くなりになられました方々に心よりご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまにお見舞い申し上げます。

6月10日に大阪市北区の「石川県大阪事務所」へ訪問し、災害義援金60万円を大阪維新の会四條畷市議会議員団（坂本勇基議員、柳生駿祐議員、土井一慶の3名）でお贈りしました。

令和5年の四條畷市議会議員選挙で、大阪維新の会は議員報酬削減を公約に掲げておりましたが、改選後、公約を達成できていないとして令和5年5月～10月分は沖縄県へ義援金として70万円をお贈りしました。

令和6年2月定例議会において、令和6年4月分の報酬より、53万円だった報酬を47万円に減額する条例改正により議員報酬の公約は達成しましたが、今回、石川県へ災害義援金としてお贈りしましたのは、令和5年11月～令和6年3月分までと人事院勧告による期末手当の増額分から各議員が20万円を出し捻出しました。

大阪維新の会は市民の皆さんと約束したことを着実に進めるため、取り組んでまいります。



## 市政報告 Vol.07

四條畷市議会議員  
(大阪維新の会 四條畷市議会議員団幹事長)

# 土井かずよし

## Profile

日本維新の会大阪府大東市及び四條畷市支部支部長  
(医)河北会顧問、(福)めぐみ保育園理事、元（一社）四條畷青年会議所理事、四條畷市ゴルフ連盟理事  
1981年1月1日四條畷生まれ  
《学歴》忍が丘幼稚園、四條畷東小学校、四條畷南中学校、大阪産業大学附属高校、大阪法律専門学校卒



発行日 令和6年11月10日  
発行元 土井一慶 090-1591-5611

## トピックス

- 議員報酬削減案について
- 2月定例議会一般質問について

- 議員年金復活？について
- 6月定例議会一般質問について

## 議員報酬削減案について

令和6年2月定例議会において四條畷市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について（議員報酬削減案）が全会一致で可決されました。

2019年の統一地方選挙後、我々大阪維新の会は議員報酬10%削減案を議会に提案しましたが、大阪維新の会以外の反対で否決されました。この議論の中で根拠を示せや議員の成り手がなくなる等色々言われました。しかし、2023年の統一地方選挙前に、特別職報酬等審議会で現在の報酬が適正なのか審議してもらうことを大枠で合意←ここが大きい。改選後、令和5年度中に諮問→答申→条例改正の約束を取り付けました。私たちは、530,000円の報酬が府内類似団体から見たら高いと訴えていましたが、仮に答申の結果が意に反した結果でも受け入れる覚悟でした。

結果は

	改正前	改正後
議長	590,000円	560,000円
副議長	555,000円	500,000円
議員	530,000円	470,000円

訴えていた10%を超える削減となりました。これは時限措置等ではなく、条例の本則の改正となる為、**期末手当（ボーナス）**にも反映されます。紆余曲折ありましたが、何とか最後に全会一致で可決できたことは市民の皆さまの後押しがあったお陰と思っています。報酬が下がったからと言って仕事の手を抜くということではありません。今後も「大好きな、四條畷のために」頑張ります。